

コロナ対策、「7対3」問題 待遇改善に実効的対策が急務 府歯科技工士会と懇談



コロナ対策に関わる歯科技工士の位置づけや、技工士の後継者危機について意見交換しようとして、協会は大阪府歯科技工士会(府技)と2月9日、府技の会館で懇談した。協会からは小澤力理事長と戸井逸美副理事長、江原豊政策部長が、府技からは清水潤一会長、小谷和弘副会長、本多隆男専務理事らが出席した。3年連続の開催となった。

政府の医療機関へのコロナ対策では、医療従事者への慰労金やワクチンの優先接種をめぐって、医療機関で働いているいるかどうかによって、支援制度の対象となる歯科技工士と対象とならない技工士が生じていた。こうした技工士間の差別について清水氏は、「歯科技工士の社会的地位を歯科医療従事者としてしっかり位置付けることが必要」と述べた。

小澤氏は、協会・保団連は差別的な取扱いを厚労省に抗議するとともに、技工所の経営を支援するよう国や府に要請していることを紹介した。委託技工取引に関する「7対3」の大臣告示の問題で清水氏は、実効的な対策として「保険技工士制度」の創設に向け準備していると述べ、歯科医療界からも協力をと呼び掛けた。江原氏は「技工士が生活できる実効性ある仕組みづくりに、協会も協力していきたい」と述べ、歯科界で連携して問題の解決に取り組むことを確認した。

薬・検査値の読解法解説

2月度生涯研修 末松氏 多連携へ全身状態の推知を



臨床学術部は2月13日、2月度生涯研修講座「くすのき・検査値」で全身が見えるJdata2.0 2.2を開いた。ウェビナーを用いたWEB講習会として開催し、末松基生氏(医療法人明和病院 歯科口腔外科部長、写真)を講師に82人が参加した。末松氏は、「近年の診療報酬改定は地域包括ケアという課題のもと、歯科医師には医科多職種との連携のなかで、「くすのき・検査値」という共通言語で情報交換ができる調整力や全身状態を即座に把握し、専門的なアプローチを実施する能力が求められる」と強調した。「医科研修医並みの

末松氏は、「おくすり手帳」から病識のない患者の全身状態を推知する方法や処方薬との相性や注意点を事例を示しながら解説。また血液検査データの「8項目スリードチェック法」による効率的な読解方法を紹介した。

大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第二教室 教授 鶴澤 成一 講師 今井 智章

抜歯合併症の予測

埋伏智歯抜歯は口腔外科外来診療の主体となる観血的処置であり、口腔外科病診連携の基盤をなしています。下顎智歯抜歯の最も懸念される合併症として、下歯槽神経傷害に伴うオトガイ神経領域知覚異常が挙げられます。一旦発症すれば、患者のQOLが長期的に低下することもあるため、上記リスクを患者背景や画像所見をもとに評価することは重要ですが、相応の経験と知識を要します。そこで当科では、経験不問で抜歯前評価を可視化する「下顎智歯抜歯前評価支援システム」の開発を目指してあります。

コロナ禍の歯科訪問診療 高齢者施設にアンケート

新型コロナウイルス感染拡大の第6波が広がる中、協会が歯科訪問診療の受け入れの現状について高齢者施設に尋ねたところ、「受け入れしている」が約9割を占めており、入居者への訪問診療を重視していることがわかった。一方で、緊急事態宣言が再発令された場合、「受け入れを制限・中断する」と回答した。大阪府内の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など約550施設に対し1月下旬に郵送で実施し、146施設が回答した。

科訪問診療の重要性についての認識を尋ねると、「大切」が89.7%と大半を占めていることが伺える。

これまでにコロナ禍で歯科訪問診療の受け入れを中断したことがあるかについては、「ある」52.4%、「ない」47.6%で過半数が受け入れを中断していた。中断による口腔の健康への影響として、「入れ歯に不具合が生じた」34.9%、「歯周病が悪化」19%、「口臭が悪化」15.9%など上位を占めた(複数回答)。

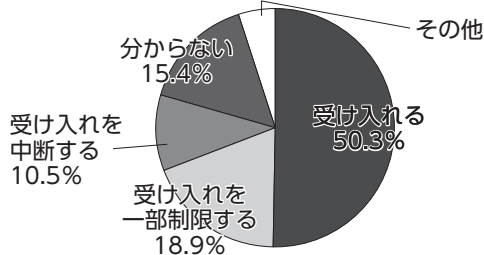
安心して歯科訪問診療を受け入れるために必要なのは、「ある」86%、「歯科医療従事者のワクチン接種」54.5%、「歯科医療従事者の定期的なPCR検査」52.4%、「入居者・職員の定期的なPCR検査」32.2%が多かった(複数回答)。

「下顎智歯抜歯前評価支援システム」の開発

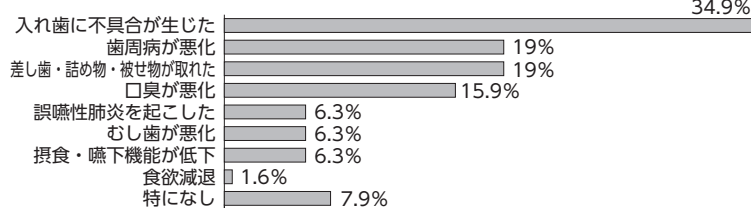
抜歯前評価支援システム 当科過去10年間の抜歯症例データをもとに、コンピュータ(CBCCT)所見と年齢の5項目からなる知覚異常発生確率算出モデルを構築しました。Excelユーザーフォームで簡単に表示されるもので、端末上で展開すればチャートでも使用できます。今後、他施設例を用いた検証(外的検証)を要しますが、少なくとも当科においては、CBCCT撮影済みの下顎智歯抜歯症例に対する術前リスク評価に客観性をもたせるツールになりうるかと考えられます。

緊急事態宣言再発令なら 3割が受け入れを制限・中断

Q. 今後、緊急事態宣言が再発令された場合、歯科訪問診療を受け入れますか?

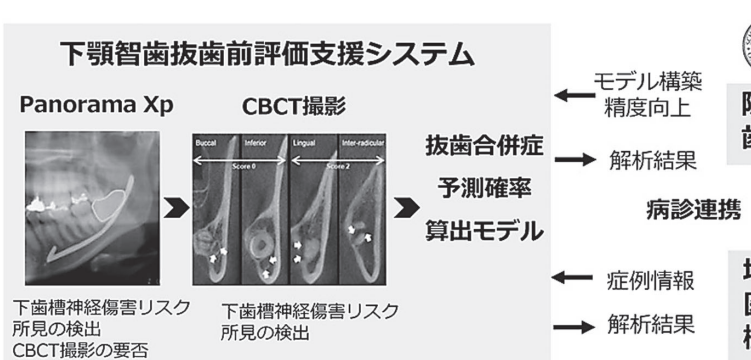


Q. 歯科訪問診療の受け入れ中断による入居者の口腔の健康への影響(複数回答)



「歯科医療従事者の定期的なPCR検査」52.4% 「コロナ禍で歯科訪問診療を受け入れることについては、不安」12.7%、「やや不安」42.3%を合わせると、過半数が不安を感じている。

今後、緊急事態宣言が再発令された場合、歯科訪問診療を受け入れるかについては、「受け入れる」50.3%、「一部制限する」18.9%、「受け入れを中断する」10.5%、「わからない」15.4%。



「下顎智歯抜歯前評価支援システム」は、CBCCT撮影判断の最適化や下顎智歯抜歯の治療方針意思決定に寄与するとともに、将来的には口腔外科病診連携を深める役割を担うことが期待されます。